

平成 29 年度大阪府立箕面東高等学校 第 2 回学校協議会 報告

【日時】 平成 29 年 11 月 29 日（金） 15 時 30 分～16 時 45 分

【場所】 校長室

【出席者】 学校協議会委員：伊東 義輝（大阪成蹊短期大学）、
小山 正辰（森ノ宮医療大学）、
浅井 隆志（箕面市立第六中学校 校長）
須貝 昭子（NPO 法人「市民活動フォーラムみのお」）、
入谷 光代（本校 PTA 会長）、篠崎 朗（本校同窓会会長）
校長：國守 正二
事務局：鎌田 啓（教頭）、堀 茂樹（教頭）、川上 慶次郎（首席）
森本 光展（保健相談部・教育相談係）、
藤田 晋太郎（3 年次主任）、佐藤 隆夫（2 年次主任）、
小坂 昇平（1 年次主任）
書記：加減 美佳（教諭）、徳丸 大輔（教諭）

【挨拶】

- ・ 校長挨拶
- ・ 学校協議会委員紹介
- ・ 学校事務局員紹介
- ・ 学校協議会実施要項の確認 平成 29 年度学校協議会会長は伊東義輝委員

【説明・報告事項】

1. 箕面東高校の状況

・ 箕面東高校の状況（校長）

エンパワメントスクールのスライドによる状況説明

在籍状況・・・転退学者は 1 年で 4 名であり例年より少なく、落ち着いている様子

毎月の全校集会を実施し、目標を提示している

文化祭の様子

修学旅行は五島列島へ・・・「民泊よかった」という生徒の意見あり

1 年生：朝の学習（10 分）、学び直し

SJ プラン・・・放課後と長期休暇に補習、自習室完成（同窓会寄贈）

「よい人材に入ってもらうのではなく、よい人材に育てる」

・各年次の状況（各年次主任）

＜ES3 期生の状況について（小坂）＞

- ・懲戒は夏までに数回あったが、現在は落ち着いている。
- ・文化祭では、6 クラス中 3 クラスが模擬店で 3 クラスがステージを使用（ダンス、ミュージカル、Music video）。
- ・遠足は河原町で現地集合をしてから班で行動。→台湾での修学旅行へ準備を進める。
- ・進路決定を早めにさせるよう指導していく。

＜ES2 期生の状況について（佐藤）＞

- ・6 月以降落ち着いてきており、特に問題なし。
- ・4 月～9 月で遅刻数 850 件に対して、10 月は 260 件と増加。11 月はまた減少傾向。
- ・修学旅行では、民泊先で貴重な体験をした。その他にもペーロン体験やハウステンボス散策などを経験した。→アンケートは今後実施するが、肯定的な意見が期待できる。
- ・1 期 3 期に比べて考査欠点者が多い。そのため提出物を提出するよう促すなど平常点をとるよう学年でサポートしている。

＜ES1 期生の状況について（藤田）＞

- ・6 月から本格的に進路決定を家族で相談。校内指定校に欠席日数の基準を導入したことにより欠席日数が激減した。9 月後半から進路決定者と公募推薦受験者との間で意識にズレが生じた。
- ・就職に関して、1 次の時点で 30 名ほど受験し約 8 割合格だったが、その後希望者が増え、現在は 40 名ほど受験し約 9 割合格した。
- ・専門学校に関しては希望者が 30 名弱と CS に比べて減少したが特に問題なし。
- ・大学に関して、指定校受験希望生は減少だが公募・一般受験希望生が増加した。SJ のうち十数名とそれ以外で約 30 名ほどで公募推薦を受験した。学習を頑張るという雰囲気作りができた。関西外大は合格をもらっているが、産近甲龍は苦戦。しかし、一般入試まで粘らせたい。
- ・進路未決定者（フリーター希望など）は全体で 2～3 人と CS に比べて激減した。

＜意見・質問＞

（委員） ES（習熟度別学習やもじゅール授業）の成果は出ているのか。

→ ベネッセ模試の GTZ の結果では国語が特に伸びている。

英語・数学は苦手意識を取り除くのが難しい。

→ 「中学生の時より点が取れた」という達成感をもてるようになった。

修学旅行に向けて英語のモチベーションを高めたい。（小坂）

→ 英語の点数が取れないと公募受験で実感。（藤田）

→ 1 期は 1 年次で長文をしないで文法中心だった。3 期は 1 年次から長文も含めて学習している

ので、3年次での負担を軽減できていると考えている。(小坂)

→ 独自の教材を使いながら、修正を加えて指導を行っている。

数学はカリキュラム的に伸びにくい現状。(國守)

(委員) 進路未決定者が減ったということが成果。

2. 教育相談体制の状況(森本)

- ・不登校状況

文部科学省の不登校の定義による、不登校ペースの生徒が 2014 年 157 人。→2017 年 34 人。CS から ES になり激減したことが分かる。

- ・支援教育体制

個別の教育支援計画作成対象者が去年に比べて増加。

- ・外部との連携

「めいぷるカフェ」活動。生徒はお昼ご飯を食べにくる。

NPO 法人フェアロードによる居場所活動。不登校生徒に効果あり。

- ・他機関と多機関連携

多様な生徒の状況に合わせて多様な支援機関と連携。

- ・いじめ

いじめの被害者が「らいとぴあ 21」に通っている。

<意見・質問>

(委員) 支援計画作成対象者はどのように決定しているのか。

→ 中学校からの引継ぎが基本。高校生活支援カードを参考にする。

合格者説明会、入学式でのアンケートにおける聞き取りで診断があったと分かったときなど、はっきり出ているとき。(森本)

(委員) 個別の支援計画を作成して、教育課程を変更しているのか。

通級が始まるがどうなるか。

→ 就労体験は夏休み、教育課程外で支援を行う。(森本)

→ 通級に関しては、柴島高校と松原高校でのみ実施。(國守)

【協議事項】

1. 平成 29 年度・学校経営計画の取組みの進捗状況について(國守)

- ・授業アンケート 2 回実施。

- ・研究授業 5 回実施。校長の授業見学一落ち着いた様子。

- ・キャリア教育ー社長に来てもらい、話を聞く機会を作っている。中小企業が多いということが理解できた様子。デュアル生は実習先での経験を活かして進路決定をしている生徒もいる。

<意見・質問>

(委員) 意欲を持って勉強をしていると感じた。

授業のテーマが生徒と先生の間で共有されていて良かった。

高校が楽しいという声が聞けて安心した。

(委員) 意欲を感じない生徒に対して、どのようにモチベーションを上げているのか。

→ 1年次は学び直して達成感、2年次は行事を通して帰属意識をもたせる。

これらが目標をもつこと、意欲につながる。

しかし、欠席が多い生徒にはそれが厳しい。

(委員) 体育祭、修学旅行などを使って仲間意識をもたせ、目標をもたすのは良い。

(委員) みのひが展、最近若い人が親と一緒に来ている。

パネルの内容がおもしろい。生徒の表情が変わったと外部から声があった。

2. 授業アンケートについて (國守)

- ・フィードバックして、授業力 UP につなげている。

- ・子どもたちにもそれを伝えている。

<意見・質問>

(委員) 講義形式と実技形式があるが、実技形式ではどうしても評価が高くなる。

大学ではアンケートのために授業をしている先生もいるが、こちらでは教員評価にならないようにしているので良い。

(委員) 先生方も結果を気にしている。

若い先生が自分の授業を見直すきっかけになる。

(委員) 中学校では落ち着いているクラスの授業をもつ先生の評価が高くなるので、本当にその先生の授業力が低いかどうか検討する必要がある。評価の低い先生をあぶりだす結果になってしまうことが多い。

3. その他

(委員) 『学校経営計画及び学校評価』3-(1)-ウ 副主任・ポイント制の導入とは。

→ ポイント制は ES1 期が CS との違いを分かりやすくするために導入。

遅刻、服装、携帯等、生活指導に関して段階的に指導している。

次回 3月2日(金) 予定